

共栄・シマブン・扶和メタル提携

解説

「(経営)引があり、と長年の取

「まずは器ができた」(念など) 価値観を共有し、(木谷社長)——共栄・シマブン・扶和メタルの、そして3社間に「信内顧客の満足度を高め、3社が提携し、国内鉄ス頼があった」(郡社長) またコスト競争力を強化クラップ業界で年間取扱量400万ト、売上げ1由になる。600億円の最大規模のグループが誕生した。提携を検討し始めたのは、今年2月ごろ。3社が提携に至った動機の一つに、「同じ危機感を共有している」(同) ことがある。少子高齢化に伴い、鉄スクラップの長期的な内需減少は避けられない。直近では関西で相次ぐ製鋼休止もあった。さらに、外需も日本産鉄スクラップの主要輸出先である中韓の自給化が予想され、新たな輸出先の確保が将来的な課題となっている。このほか、3社ともに高炉メーカーと長年の取引があり、

提携3社の概要

社名	共栄	シマブン シマブン シマブン	扶和メタル
本社所在地	兵庫県神戸市中央区	兵庫県神戸市灘区	大阪府中央区
代表者	郡義信	木谷謙介	黒川友二
事業内容	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・解体作業	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・解体作業	製鋼原料の加工・販売、鋼材の解体・解体作業
資本金	4,000万円	6,550万円	1,000万円
創業	1927年12月	1909年10月	1908年6月
単独売上高(14年12月)	608億円	723億円	245億円

国内最大規模 売上げ3社計1600億円

「コスト競争力」の強維持する。提携がこの課題をいきなり解消するわけではない。また、新日鉄住金発足後、鉄鋼業界の変化は激しさを増した。鉄リサイクル業界でも、周辺では商社再編、電炉メーカーの製鋼休止があり、そして業界内ではスストックDとエンビプロHDを中合、5千ト心とした新たな提携グループも生まれている。この提携で3社にとっだが、1社、海外事業も含め、あらゆる選択肢が広がった。「信頼感のある3社がま集まった。次の展開は、3社なこれから検討していく」(郡社長)と、この提携がどう発展するかはまだ分からない。

3社提携という「器」はできた。中身はどうか。今後の展開に期待したい。

(宇尾野 宏之)